

解説

現場の当たり前を支える

こやなぎ もとみ
小柳 基巳

ヤスタエンジニアリング(株)
上之郷工作所



1 はじめに

現場でトラブルなく機械が動くこと。それは決して当たり前ではありません。

その裏側には、資機材を次の現場へ万全の状態を送り出す仕事があります。それを担っているのが、上之郷工作所です。

当社において、上之郷工作所は、推進工事に使用する資機材の保守整備・保管・製作を行う部署です。日々の業務を通じて現場の安全と安心を守り抜き、工事の円滑な進行を支えるとともに、突発的な事態にも柔軟に対応できる体制を維持しています。表に出ることは少ない部署ではありますが、現場を陰で支える確かな自負を持って、その役割を果たしています。

1.1 上之郷工作所ができるまで

当社の機材整備部門（工作所）は、奈良県北葛城郡広陵町（呼称：広陵倉庫）で1990年頃から始まりました。当時は現在の半分ほどの資機材しか保有しておらず、整備を行う従業員も数人規模でした。整備は機械の状態を把握しながら保守点検を中心とした整備を行い、整備費をできるだけ抑える方針で現場へ出庫していました。

しかしその分、現場からの苦情も多く、その都度現場へ赴き修理を行うことも少なくなかったようです。

2009年に広陵倉庫から忠岡工作所（略称、大阪府

泉北郡忠岡町）に移転し、2015年のベトナム進出から大型機材の保有数も増加、それに伴い従業員数も12人から7人程増えました。現在では細かな異変も見逃さない、精度の高い保守整備が組織として定着しています。また、本社の安全パトロールとは別に、工作所内でも月に一度安全パトロールを実施するなど安全面にも細心の注意を払うようになりました。

昨年、大阪府泉北郡忠岡町から大阪府泉佐野市に移転し、新社屋にて上之郷工作所として新たなスタートをきりました。より安心して資機材を使用してもらえよう日々保守整備業務に取り組んでいます（図-1）。



図-1 上之郷工作所位置（国土地理院地図に加筆）

1.2 忠岡から上之郷への移転

移転は3月から開始で、6月から業務開始が決定しました。

移転作業では、忠岡・上之郷・資材置き場（略称：土丸）の3箇所間で人員を分けて対応することとなりました。先発隊として9名が上之郷へ移動し、残る7名で忠岡の資機材出庫や不要な資機材の処分、後片付けを行いました。また上之郷の従業員だけでなく、工事部の方にも協力していただき、3箇所間で作業を分担しながら期限内に移転を完了できるよう取り組みました。

移転期間中でも推進の現場は稼働しているので、出庫は忠岡、入庫は上之郷で行いました。整備業務は、移転期間中、調整しながら行い、移転完了後本格的に再開しました。

日々状況が変わる中で、人員配置や工程の調整に試行錯誤を重ね、安全を最優先に無理・無駄・ムラを省き効率的な作業を追求した結果、期限内に無事故で移転が完了し、6月より新工作所で業務を開始することができました。

2 上之郷作業所の紹介

ここから上之郷工作所の社屋紹介をします（写真-1、図-2）。

工作所の敷地は2,200坪（サッカーコート約1.5面分）で、敷地内にはA棟からE棟までの建屋があり、それぞれ保守整備・保管・製作などの業務に応じ使い分けられています。

A棟には、建屋に向かって左側が2階建てで、右側は吹き抜け構造となっています（図-3）。吹き抜けの部分では、送泥プラントや排泥ユニットなどの大型機械の洗浄・整備・点検を行っており、左側の作業場では、油圧ジャッキや油圧ユニットなど油圧関係の修理・整備・点検を行っています（写真-3、4）。

2階には、ホイストなどの小型機材を保管しています。A棟周りには喫煙場を設置しています（写真-5～7）。

B棟は(株)インテックの建屋になります。

(株)インテックは、当社のグループ会社であり、掘進機の保守整備・保管・製作を行っています。



写真-1 上之郷工作所全景

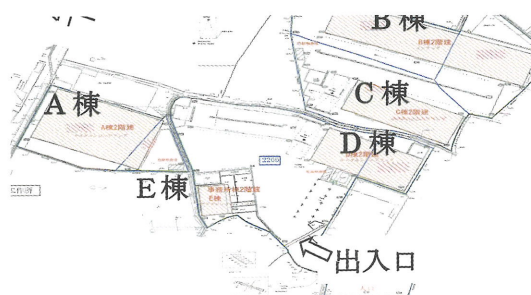


図-2 上之郷工作所平面概略

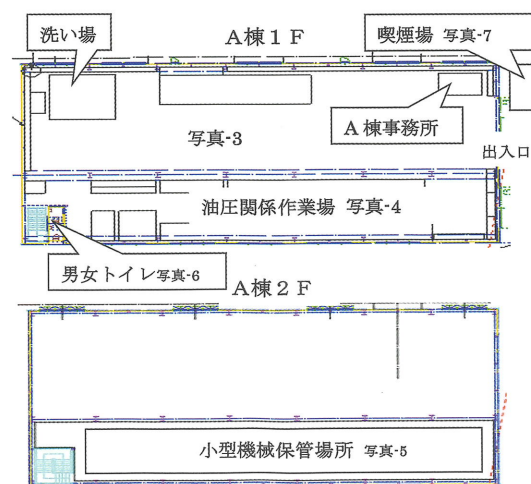


図-3 A棟概略



写真-2 A棟およびE棟



写真-3 A棟吹抜け部 送泥プラント他 左柱上が2F

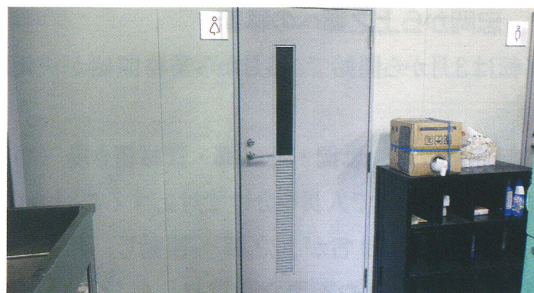


写真-6 A棟1F階段下 来客・従業員用女性トイレ完備



写真-4 A棟1F 油圧関係作業場

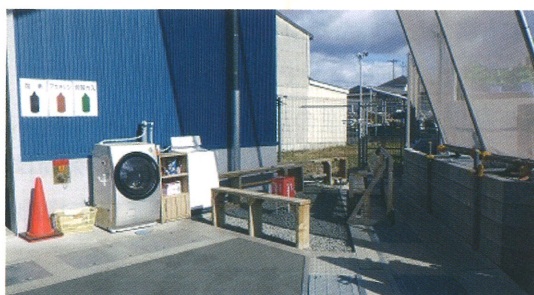


写真-7 喫煙場による分煙化の徹底



写真-5 A棟2F 小型機械保管場所

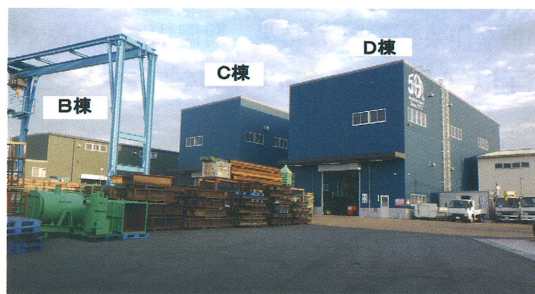


写真-8 B・C・D棟

C棟は主に資機材の保管と現場へ出庫する資機材の準備を行います（写真-8、図-4）。

出入口付近にC棟用の事務所、奥には電気関係の作業場があります。その向かい側には電線を巻く線巻機械を設置し、1番奥には休憩室があります。

2階にはホース用の線巻機械を設置しており、ホース類をはじめ、ミリング工法で使用する資機材などの保管場所となっています。

また、屋上には「地域社会への電力供給」も担う太陽光発電システムを導入しています。この設備により、日中の電力消費約6割を自社発電でまかない、電力会社からの購入電力量を削減することでCO₂排出量を33.5%削減。3月実績では消費電力を27%も上回る発電量を記録するなど、エネルギーの自給自足とクリーンな事業運営の両立を体現しています。

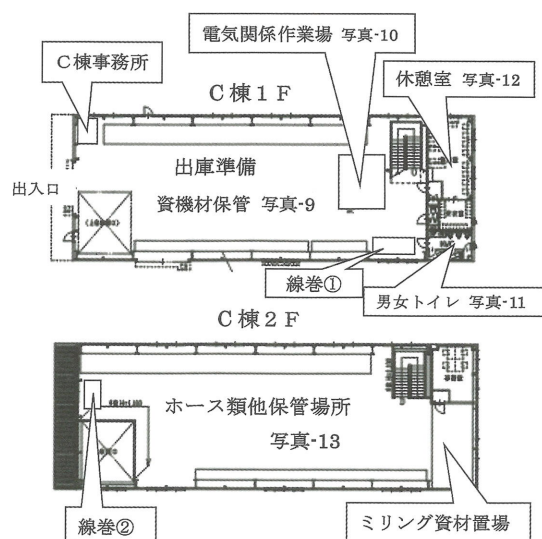


図-4 C棟概略

【上之郷クリーンエネルギー・ベース】

地域社会への供給能力を備えた、地域共生型インフラ

○設備概要

- ・太陽光パネル425w 322枚 136.85kw出力
- ・年間想定発電量 約150.000kWh

○稼働実績（2026年3月度）

- ・エネルギー自給率：127.8%

総消費 11,295.6kWh／発電 14,434.6kWh

（一般家庭約40世帯分の月間消費電力相当）

- ・自家消費量：7,039.6kWh
（昼間の生産活動に必要な電力の約6割をカバー）
- ・CO₂排出削減量：4,855.68 kg-CO₂

1～4月累計

（スギの木約340本が1年間に吸収する量と同じだけのCO₂を削減）

- ・地域貢献：売電量 7,395.0kWh

自社で使いきれなかった余剰電力を地域社会へ供給（上之郷から一般家庭約20世帯分のクリーンな電気を地域へ送り届けています）（写真-9～13）

D棟では半透明のカーテンで仕切って製缶場とロードヒーティングの製作作業場があります。手前が製缶場で、奥が後で述べる融雪装置のロードヒーティング製作作業



写真-9 C棟 資機材倉庫



写真-10 C棟 電気関係作業場



写真-13 C棟2F ホース類他保管場所



写真-11 C棟 男女温水洗浄式トイレ



写真-14 D棟 カーテン手前が製缶場。奥はロードヒーティング作業場



写真-12 C棟 エアコン完備の休憩室



写真-15 ロードヒーティング作業場

場です（写真－14、15）。

2階には小口径掘進機用の資機材や耐圧ホースの保管場所があります（写真－16、17）。ロードヒーティング作業場および2階へは、建屋横の出入口から出入りする構造となっています（写真－18）。

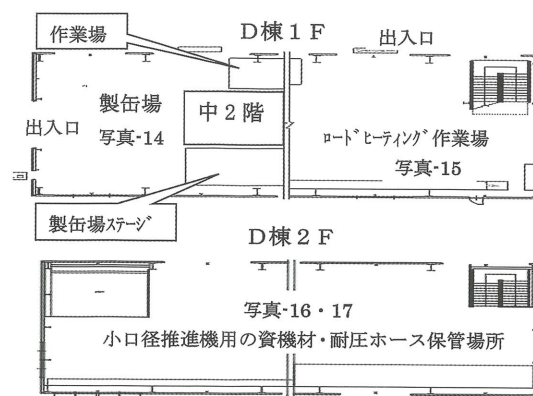
D棟奥には洗い場を設けており、現場から返却された資機材をここで洗浄し、次の使用に備えて整備を行います（写真－19）。

資機材の出入庫の際には屋外に設置している門形クレーンを使用し、トラックへの積み込み・積み降ろしを行っています（写真－20）。

最後にE棟は、事務所棟で1階には事務所と応接室、男女更衣室が設置しており、2階には従業員休憩室と会議室があります。

また、トイレについては、E棟のみ1階と2階の両方に

設置しており、従業員だけでなく来客時にも利用しやすい設備となっています（写真－21～24）



図－5 D棟概略



写真－16 製缶場2F 小口径掘進機保管場所



写真－19 C・D棟間にある奥の洗い場



写真－17 製缶場2F 耐圧ホース保管場所



写真－20 C・D棟前の2.9t吊り橋型クレーン



写真－18 D棟横出入口



写真－21 E棟 1F事務所



写真-22 E棟 1F応接室



写真-23 E棟 2F休憩室



写真-24 E棟 2F会議室

【屋外資材置き場（土丸）】

当社は資機材を多数保有しているため、屋内ヤードでは収まりきらない資機材を、屋外にある資材置き場で保管しています。

整備は上之郷で行い、整備完了後は屋外資材置き場で保管し、現場へ出庫します（図-1、写真-25）。



写真-25 屋外資材置き場（土丸）

3 通常業務の紹介

3.1 保有推進設備一覧（表-1～3）

表-1 保有資機材

名 称	保有台数
送泥プラント（車上プラント含む）	32台
排泥ユニット	32台
泥水処理機	13台
推力低減システム	5台
ミリング注入プラント	2台
P A - 1 0 ポンプ単体	7台
P A - 1 5 ポンプ単体	2台
F D ポンプ単体	2台
スクイズポンプ	8台
小立坑発進架台 200ton	1台
小立坑発進架台 300ton	3台
押次郎（100ton×4台）	1セット
バーディージャッキ φ800～1200mm	1台
ジャッキ 150ton 3段	16台
ジャッキ 200ton 2ストロング	150台
サンドポンプ 5.5kW～30kW	54台

他保有資機材多数あり

表-2 保有フォークリフト

エンジン	フォークリフト	1.5ton	2台
エンジン	フォークリフト	2ton	2台
エンジン	フォークリフト	2.5ton	15台
エンジン	フォークリフト	3ton	3台
エンジン	フォークリフト	4ton	1台
バッテリー	フォークリフト	1.5ton	1台
バッテリー	フォークリフト	2.5ton	1台
リーチ式	フォークリフト	2ton	2台

表-3 保有トラック

軽トラック	1台
2ton平車	1台
3.5tonユニック車	1台
4ton平車	1台
4tonユニック車	3台
増トン平車	1台
増トンセルフローダー	1台
10tonユニック車	1台
11tonユニック車	1台

3.2 整備内容および各業務内容

(1) 機械整備

整備を行う際の基本的な手順は機械の種類によって多少異なりますが、概ね図-6に示す工程で実施しています。

プラントなどには電気機器が組み込まれており、現場の湿気でダメージを受けている事が多いので、入荷後はまず①メガテスターによる絶縁抵抗測定（漏電チェック）を行います。

次に②洗浄作業を行います（写真-26）。

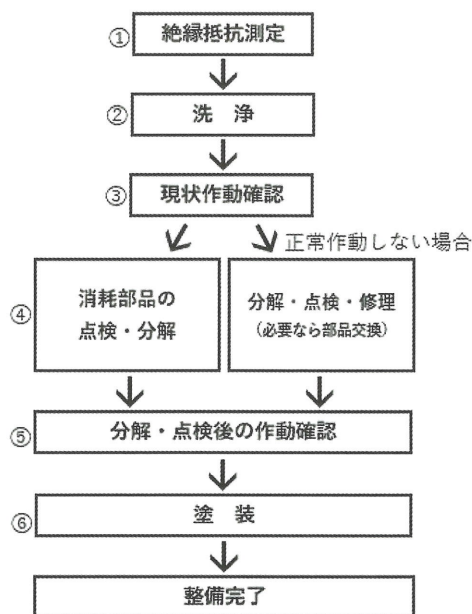


写真-26 送泥プラント洗浄作業

絶縁抵抗測定後、洗い場にて高圧洗浄機を使用し、機械に付着した泥や汚れを洗い落とします。

洗浄後は③現状作動確認を行い、機械が正常に動作するかを確認します。この作動確認で不具合が見つかった場合は④分解点検を行い、必要に応じて修理や部品交換を実施します。また、現状作動確認で正常に作動している場合でも、機械の種類によっては消耗部品の状態を確認するために分解・点検を行うことがあります。

分解・点検が完了した後は⑤再度、作動確認を行い、問題がないことを確認したうえで、最終工程として⑥塗装作業を行います。

以上が基本的な整備の流れとなります。

機械の状態に問題がなければ、整備は実働1～3日程で完了しますが、交換部品が多い場合や修理箇所が多い場合には、実働3～4週間、場合によっては1ヶ

月以上かかることもあります。

当社の特長として推進機械を自社で保有しているため、現場でトラブルが発生した場合でも機械の入れ替えや保守対応を自社で行うことが可能です。この体制が生み出す圧倒的な機動力こそが当社の強みであり、いかなる状況でも現場の歩みを止めないことが、上之郷工作所に課せられた使命だと考えています(写真-27～31)。

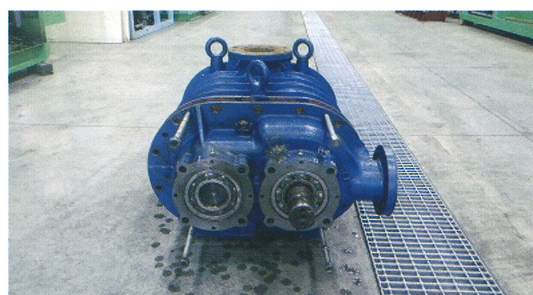


写真-27 排泥ユニット真空ポンプ分解

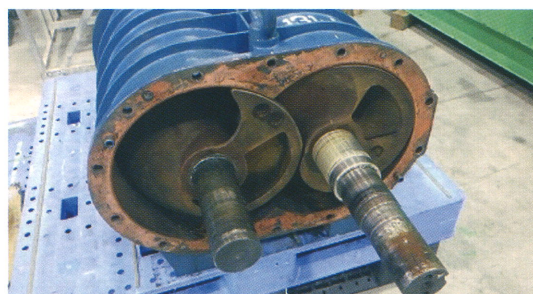


写真-28 排泥ユニット真空ポンプ分解(2)



写真-29 排泥ユニット真空ポンプ分解(3)

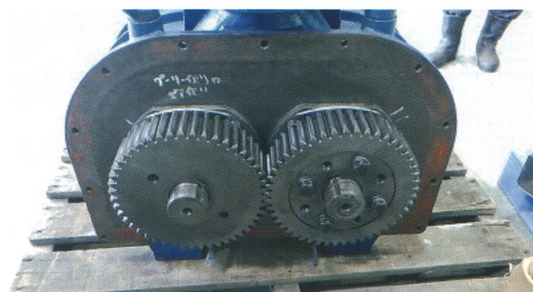


写真-30 排泥ユニット真空ポンプ組立

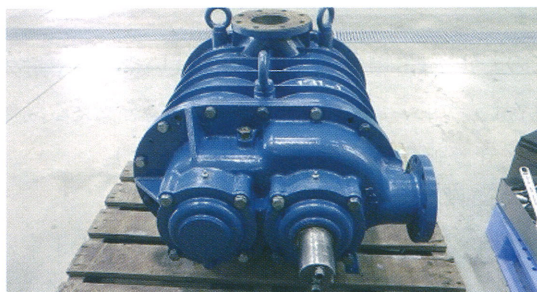


写真-31 排泥ユニット真空ポンプ組立完了



写真-34 現場より返却荷



写真-32 出庫前の準備荷



写真-35 荷降ろし作業（排泥ユニット）



写真-33 出庫作業



写真-36 荷降ろし作業（3tフォークリフト）

(2) 出庫準備と出庫・入庫

現場への出庫準備は、各現場から提出されるオーダー表をもとに行います。整備した機械や資機材を、BOXパレットなどに事前にまとめて準備し、トラックへ積み込みます。

また、出庫・入庫を同日に行う場合もあるため、荷物には現場名を記載した紅白の荷札を取り付け、出庫は白、入庫は赤と一目で判別できるようにしています。

車両への積み込みは車両走行時の安定を考慮し荷物の重心を考え、玉掛け作業者に早めに積み込み準備の指示を出すことで、安全かつバランスよく隙間のないよう荷物を配置します。積み込み完了後、荷姿の確認を複数人で行い安全に搬送できる状態であることを確認します。

荷降ろしの際は、不安定な荷や崩れやすい荷から優先して降ろすようにし、複数台のトラックの荷降ろしがあ

る場合は、建屋への搬入順を考慮し時間のロスが出ないように効率よく降ろします。

以前の忠岡では建屋同士が離れた場所にあったため、2箇所で積み込みを行っていましたが、上之郷工作所に移転してからは、同一敷地内で出入庫作業が行えるようになり、作業の負担軽減と時間短縮を実現しました。

さらに現在は、ソフト面での生産性を高めるため、出入庫管理システムの導入を推進しています。手書き伝票からデータ管理へ移行し、ペーパーレス化と迅速な情報共有を確立することで、よりスムーズな業務運営を目指しています（写真-32～36）。

(3) 電気関係作業

電気関係では、現場から返却された機材や電線類の点検および修理を行っています。

現場から返却された電線は、内部に水が溜まり漏電

の可能性があるので、必ずメガテスターによる絶縁抵抗測定を行い、漏電の有無の確認をします。また、送泥プラントや振動ふるい（デサンドマン）、油圧ユニットなどの大型機械については、作動確認を行った上で異常の有無を確認し不具合があれば分解点検や修理を実施します（写真-37）。



写真-37 動力線の修理作業

このように、電気関係の点検・整備についても、現場で安全に使用できる状態で搬出できるよう確実な整備を行っています。

(4) 製缶場

製缶場では押輪やスパーサなどの資機材の修理のほか、各種機械の製作を行っています。

製缶作業においては、定まった作業手順があるとは限らないため、その都度工程を考えながら最善の方法で作業を行っています。溶接には必ず起こる熱のひずみが発生するため、その影響を考慮しながら修正を行い、精度を保つよう注意して作業を行っています。

当社では機械の自社製作を行っているため、製作や改良・改造を行う際には、実際に現場で使用する状況を想定しながら設計を行います。強度や耐久性、使用頻度などを考慮し、用途に応じて鋼材の厚みやサイズを設定するなど、長時間安全に使用できるよう工夫してい



写真-38 定置式タンクの改良

ます。

このように製缶場では、現場での使いやすさや耐久性を重視しながら、バックヤードとして現場を支える機械製作や保守整備を行っています（写真-38）。

(5) 洗浄作業

洗浄作業は、現場から返却された資機材を丁寧に洗い上げ、次の現場で安全に使用できる状態に整える重要な工程です。たとえ使用されなかったホースであっても、結束を解き、一本ずつ必ず洗浄を行います。

また、洗浄と同時に破損や異常がないかを確認し、不具合の早期発見にもつなげています。特にホース類の洗浄は、安全に直結する非常に重要な作業です。内部に詰まった薬剤や泥は、一度固まってしまうと除去するのに多大な労力を要します。そのまま使用すれば破裂事故などの重大なトラブルを招きかねないのでホース類の洗浄は大事な作業です。そのため、高圧洗浄機を駆使し、内部の詰まりが完全になくなるまで、根気強く細部まで洗浄を徹底しています。

このように洗浄作業は、単に汚れを落とすだけでなく、安全を担保するための精密な点検を兼ねています。現場で安心して資機材を使用できるのは、この地道で妥協を許さない作業によって維持されています（写真-39）。



写真-39 ビクトリックジョイントの洗浄

(6) 線巻作業

線巻機械はC棟の1階と2階に設置しており、1階は電線用、2階はホース用として使用しています。線巻機械については、忠岡工作所の時に、いちから自社製作をしたもので、現在2機あります。それぞれ愛称を付けており、1階にある機械を「巻太郎」、2階にある機械を「巻次郎」と命名しています。

ホースや電線の線巻作業は、この自社製作の線巻機

を使用して行います。巻き癖がついたホースや電線は、一度まっすぐに伸ばしてから線巻機で巻き取っていきます。

線巻機が導入される以前は、従業員がすべて手作業で巻いていましたが、線巻機が導入してからは、太さによりますが、細いものであれば約20mのホースを1巻き5分程で巻くことが可能になり、作業時間の短縮と作業効率の向上につながっています。

また、巻き取り作業を行いながら、ホースや電線の破損や異常がないかを確認し、状態をチェックします。巻き取り完了後は、ホースの先端ネジ山をワイヤブラシで掃除し、防錆のため作動油を塗布したうえで、現場へ出庫するまで保管します（写真－40、41）。



写真－40 C棟1F 巻太郎



写真－41 線巻機で巻いた電線

(7) 自社保有車の自主検査作業

当社では、保有している移動式クレーン車・フォークリフト・ユニック車などの各種車両について、自社で検査を実施しています。以前は協会社社に検査を依頼していましたが、現在は従業員が事業内検査資格を取得し「特定自主検査記録表」に基づいて自主検査を行うことで、車両の状態を日常的に把握することができ、異常の早期発見や迅速な対応につながっています。また、点検から整備まで社内で一貫して行えるため、現場で使用する際にも、安心して送り出すことができる体制と

なっています。

(8) 新規事業への取組み（融雪装置）

ロードヒーティングとは、当社が新しく取り組んでいるソフテック事業部が行う融雪装置の一種です。豪雪地域の高速道路やトンネル出入り口、階段や鉄道などに適用され、道路舗装時の表層下にヒーターを設置し、路面全体にある雪を融かし凍結を防止するシステムです。従来のロードヒーティングはニクロム線を使用したものが主流でしたが、断線などのトラブルが発生していたようです。ステンレス繊維とアラミド繊維を使用した繊維状の発熱線（以下、ヒーター線）です。

このヒーター線は従来のニクロム線と比べて柔軟性が高く、耐久性にも優れているため、様々な場所で活躍できる素材となっています。地中に埋設される製品ですが、仕上がりの見栄えにも配慮しながら製作しており、電力計算を行った上で、規定値に合わせて正確に製作しています。

また、現場で再加工を行う必要がないように、特注品トリカルネットにヒーター線を固定する位置の調整も作業場で事前に行っており、様々な現地の形状に対応しています。

積雪地域では作業前の除雪が不可欠ですが、ロードヒーティングを敷設した北海道の現場では、降雪時でも



写真－42 融雪状況



写真－43 ロードヒーティング製作

即座に作業を開始することができ、現場の生産性を大幅に高めることができました（写真-42、43）。

3.3 出庫・入庫車両の手配

出庫・入庫車両の手配は、資機材の種類や数量や搬出入の状況を確認しながら、使用する車種を選定し、どの運送会社に依頼をするかを判断しています。

また、積み込みを行う際には出庫荷および入庫荷の内容を事前に確認し、過積載にならないよう十分注意して車両手配を行っています。

以前は土曜日も作業を行っていましたので、出庫の場合土曜日に積み込みを行い、日曜日を挟んで月曜日に現場へ搬入するという工程を行うこともありました。しかし現在は働き方改革の取り組みにより、土日祝が休業となり、運送会社のスケジュールも考慮しながら余裕を持った計画でトラックの手配をするようにしています。また、当社では自社保有のトラックもあるため、運送会社の車両と自社トラックを併用しながら出庫・入庫作業を行っています。

状況に応じて使い分けることで、円滑に資機材を現場へ届けられるように対応しています。

4 従業員の紹介

4.1 上之郷工作所従業員紹介

上之郷工作所では、30歳から75歳まで18名の幅広い世代が活躍し、その経歴は多彩です（表-4、5）。

同業である推進業の経験を持つ熟練者から、元自衛官や配送会社の経営者といった異業種出身者まで、多様なプロが集まっています。現場を知り尽くした「技術」と、異業種で培われた「規律」や「視点」が融合し、質の高い整備体制を支えています。

また、3名の外国人技術者も各業務の責任あるポジションを担うまでに技能が向上し、現在は日本語検定にも挑むなど、欠かせない戦力となっています。

キャリアや国籍の垣根を越え、全員が互いを尊重し高め合う「ワンチーム」として、現場の期待を超える一歩先のサポートを、これからも追求し、ともに成長し続けます。

表-4 従事者構成

人員年齢	30代	5名
	40代	4名
	50代	5名
	60代	2名
	70代	2名
勤続年数	20年以上	1名
	20年未満	6名
	10年未満	11名

【外国人従業員】

国名	ベトナム	3名
取得ビザ	技術・人文・国際業務	2名
	企業内転勤	1名

表-5 保有資格

技能講習	玉掛け	11名
	フォークリフト運転	12名
	小型移動式クレーン	9名
	床上操作式クレーン	7名
	ガス溶接	6名
	甲種防火管理新規講習	2名
	特定化学物質及び四アルキル鉛	2名
	高所作業車	2名
技能検定	2級建設機械整備技能士	1名
特別教育	アーク溶接	2名
国家資格	推進工事技士	2名
	第1種電気工事士	1名
	第2種電気工事士	2名
	危険物取扱 乙種第4類	1名
	2級ジーゼル自動車整備士	1名
免許	中型免許	5名
	大型免許	3名

他、多数資格あり

4.2 上之郷工作所のイベント

上之郷工作所では従業員同士の交流を大切にしており、年間を通じて多彩な行事を行っています（表-6）。

表-6 上之郷工作所イベント

1月	初出・新年会 鏡開きぜんざい
5月～11月	懇親会BBQ
12月	年越しそば
	ランチ会（不定期）

年初の「新年会」には役員の方々も参加され、立場を越えた親睦を図っています。

「鏡開きのぜんざい」は、グループ会社の(株)インテックの皆さんもお招きし、共に温かな時間を過ごすことで、グループ全体のつながりがより一層深まっています。

また、本社や他部署からも多くが参加する「懇親会BBQ」は、普段接点が少ないメンバーとも楽しくコミュニケーションを取れる貴重な機会です。

さらに、不定期で開催される「ランチ会」では、上

之郷の従業員である「グルメ王」自ら腕を振るう、こだわりの特製カレーなど美味しい食事を囲むことで、自然と会話が盛り上がります。

そのカレーのコンセプトは、包丁を使用せず、いかに美味しく作るか。大人数分を作るため、少しでも調理時間を短縮できるよう、あらかじめカットされた野菜を使用し、カレールーも2種類を独自にブレンドしています。また、多彩なトッピングを用意するなど、選ぶ楽しみまで追求しているのも「グルメ王」ならではのこだわりです。

そして一年の締めくくりとなる12月には、大掃除を終えた後に「年越し蕎麦」をいただきます。その年の出来事を振り返り、互いの労をねぎらいながら、新たな年への活力を養います。

こうした行事を通じて培われる「互いを想う気持ち」が、仕事においても阿吽の呼吸を生み、上之郷工作所の強固なチームワークを支える土台となっています。

上之郷に移転後、泉佐野市消防署日根野分署より「秋の全国火災予防運動に伴う消防訓練」のお話をいただき、消防訓練を実施しました。消防車や救急車、梯子車などが敷地内で待機し大規模な消防訓練となり、防災意識を高める良い機会となりました（写真－44～46）。

5 整備部門の課題

現在、上之郷工作所では知識や経験の豊富な人材が多く活躍していますが、整備技術を継承していくうえで従業員の高齢化という問題に直面しています。

今後も安定して保守整備業務を継続していくためにも、人材の確保と育成が不可欠であり、当社においても重要な課題のひとつとなっています。

そこで上之郷工作所では、新人従業員や外国人従業員が迷わず成長できるよう「教え方」と「学びやすさ」を追求した試みをおこなっています。

○見て、録って、復習できる環境

言葉だけでは伝わりにくい高度な技術も、写真や動画での記録を推奨することで、後から何度でも見返せるようにしています。教わる側もメモを徹底し、一つひとつの作業を「感覚」ではなく「知識」として着実に蓄積しています。



写真－44 鏡開きのぜんざいと年越し蕎麦、ランチ会のカレー



写真－45 懇親会BBQ



写真－46 消防訓練

○孤立させない指導体制

「見て覚えて」ではなく、指導役が常に相手の理解度や作業の進み具合に目を配っています。つまずきそうな瞬間を見逃さず、その場ですぐに的確なアドバイスを送る体制が、現場の安心感を生んでいます。

このように双方が歩み寄ることで、着実なスキルの習得を実現しています。

現在、上之郷工作所の平均年齢は48歳です。ここには長年積み上げられた「熟練の技」が詰まっています。この技術を絶やすことなく次世代へつなぐことは、私たちの最重要ミッションです。将来にわたって安定した保守整備を提供し続けるため、今後も「技術を継承する土壌」を全力でつくりあげていきます。

6 おわりに

今後の取り組みとして、長期の現場に赴き、中間点検や整備を現地で実施する体制づくりを計画しています。現場で点検・整備を行うことで、機械トラブルの早期発見や作業効率の向上につながることを目的としています。

また、上之郷周辺地域の方々との交流を深めるため、地域密着型のイベントの開催も現在構想しています。地域とのつながりを大切にしながら、より良い職場環境作りと安全な整備体制の確立を目指していきたいと考えています。

筆者は忠岡工作所で2017年2月より事務職に従事し、一般事務業務に加え、工作所のメンバーが目の前の仕事に集中し、日々の業務がスムーズに進むよう後方支援を行っています。また、見学に来社される方々に工作所

内を案内し、資機材の名称や簡単な説明を行うなど広報的な役割も務めております。

そのような業務に携わる中で、本稿を執筆させていただく機会を得ました。

実際に整備作業をする立場ではありませんが、私の眼から見た工作所を紹介させていただきました。

今回の特集「推進技術を支えるバックヤード」を通じて、推進工事を支える保守整備の重要性や上之郷工作所の役割について知っていただければ幸いです。

今後も挑戦と前進を続けるヤスダエンジニアリング(株)は「世界の地下インフラに貢献する」というビジョンを胸に、従業員一同さらなる技術向上に努め、日々精進してまいります。



写真-47 上之郷工作所メンバー

○お問い合わせ先

ヤスダエンジニアリング(株) 上之郷工作所
〒598-0024 大阪府泉佐野市上之郷2200番地
Tel : 072-493-3156 Fax : 072-493-3157
E-mail : m_koyanagi@yasuda-eng.co.jp
<https://www.yasuda-eng.co.jp>